

朝日カルチャー「野外の自然観察」

糸島市・芥屋海岸一帯

気象庁の発表では梅雨に入ったということですがもう10日以上も雨は降らず、観察地の芥屋海岸は植物たちが過酷な乾燥を耐え忍んでいる状況でした。観察コースは3ルート歩いてそれぞれ植生の違いを見ます。

まず①コースは海岸林の木陰で、クスドイゲ、ニガキ、ハリエンジュ、ニッケイ、カンコノキなどの樹木。②コースは、海水浴場の後背地の草地、ここでの注目植物は「ナミキソウとカワラマツバの紫と白の花園」の筈でしたが残念なことに乾燥に耐え切れず立ち枯れ状態でした。それに代わってウマノス



ズクサの群落が続き、これを食草にするジャコウアゲハの幼虫を多数見ることが出来、昼食時にはジャコウアゲハの♀が飛んできて、長い間止まって姿を見せてくれました。

午後は③コースの磯伝いを歩きます。一面に広がったテリハノイバラの優雅な白い花。咲きたてのハマナタマメの紅紫。もう少し待てばハマゴウの紫が磯一面を彩ります。葉をちぎって香りを楽しみました。花盛りをちょっと過ぎたハマナデシコも足元にたくさん、ハマボッサも種になりかけ。10月になればやさしい紫色の花を咲かせてくれるダルマガクのふわふわの葉も元気な株が多数生育していました。

芥屋の名所「柱状節理の洞窟・芥屋の大門」の手前で観察終了とし、車道へ出てハマビワ、ハマウド、コバンソウなどを見ながら朝の集合場所に戻り、バス出発までの間涼しい木陰でふりかえりのミニ学習会をしました。



ハマヒルガオの実が大量に砂地の石垣になっていたり、焼け付くような道端にアカバナルリハコベが元気に咲いて居たり、ハマオモト（ハマユウ）の大きな葉は青々と茂っていたり、健気に生きている植物に一滴の雨を早くほしいと思われた観察会でした。

担当 轟 溝口（記・溝口）